

令和8年7月10日

東小中学校 学校だより 号外2



9年間で育てる学校へ

「地域とともにある学校づくり」の新しい一歩 ～義務教育学校の設置に向けて

東中学校長 小澤 直彦

東小学校長 関野 貴之

日頃より、本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本年2月には、義務教育学校設置に向けて、小中合同でこの学校だよりを発行させていただきました。今回は、本市教育委員会が実施いたしました義務教育学校に関するアンケート結果を受けて、さらに詳しくご説明いたします。

アンケート結果では、これまで学校だよりやPTA会報等を通じた継続的な情報発信により、「義務教育学校制度について、研究を進めていた」ことを「知っていた」「聞いたことがあった」方は78.2%に上りましたが、依然として約2割の方が「知らなかった」と回答されている点は課題であると受け止めております。

また、義務教育学校に対して「期待している（19.4%）」と「どちらかといえば期待している（40.9%）」を合わせて約6割が肯定的な受け止め方をしています。また、「不安がある（8.5%）」との回答となりました。

一方で、「どちらでもよい」という回答が約3割存在することも見逃せません。こうした状況を踏まえ、次頁より、皆様からいただいたご意見を7つの項目に集約し、それぞれに対する回答をまとめるとともに、個別の御質問一つ一つに対する回答も記載いたしました。

また、今回のアンケートを通して義務教育学校制度に関する説明の必要性を感じ、本市教育研究所ホームページにこれまでの取組の資料を掲載しておりますので、ご覧ください。

教育研究所 HP



さらにご意見・ご質問等がある方は、右の二次元コードからお寄せいただくか、小中校長による「おしゃべり会」にて直接ご説明させていただきます。

引き続き、子どもたちの笑顔が9年間、つながる学校を目指して、皆さんと一緒に歩んでいければ幸いです。

ご意見・ご質問



1 おしゃべり会

- (1) 日時 7月23日(木) 10:00～
- (2) 場所 東小学校 校長室(人数によっては変更あり)

おしゃべり会申込

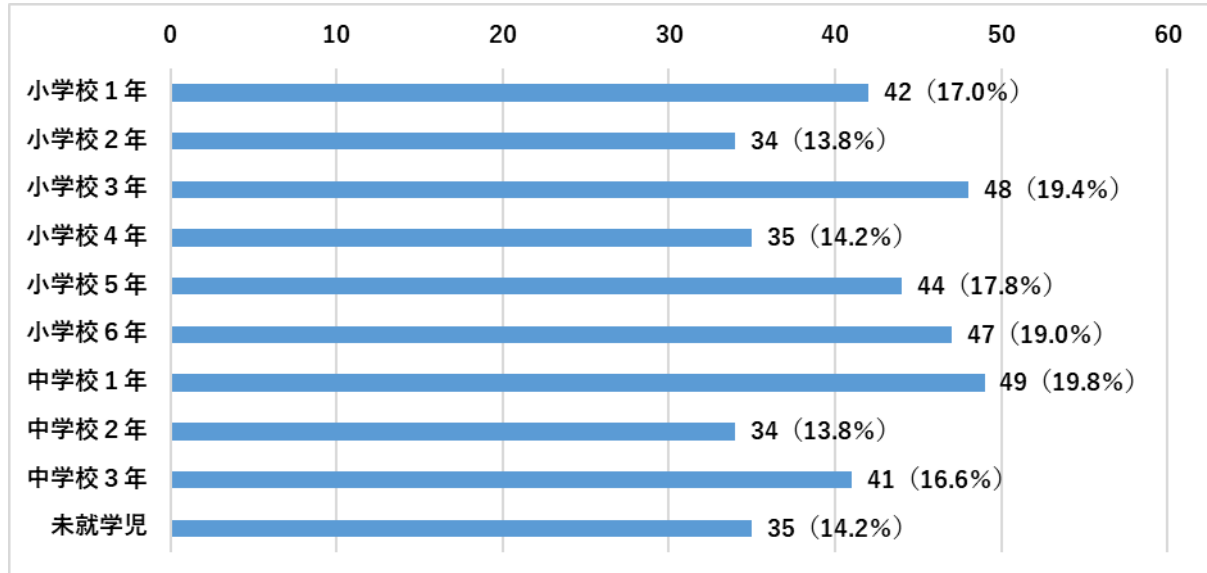


2 東小中学校区アンケート調査結果と回答

東小中学校区アンケート調査 単純集計結果（2026.05.26 時点）

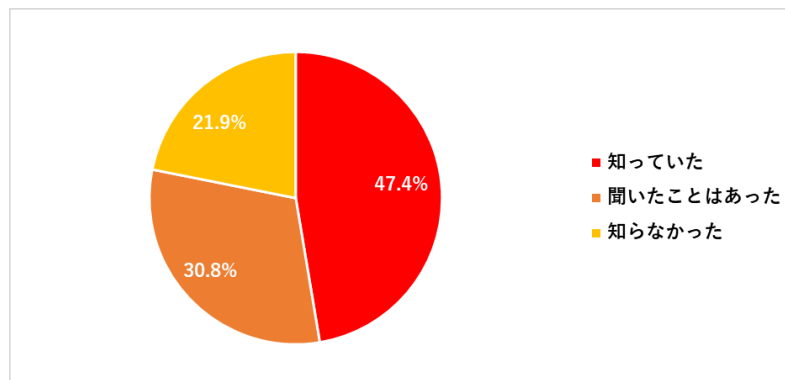
【単純集計】

問1 お子さまの学年、または未就学（幼稚園・保育園に通園、在宅保育など）のお子さまがい
らっしゃるのか教えてください。

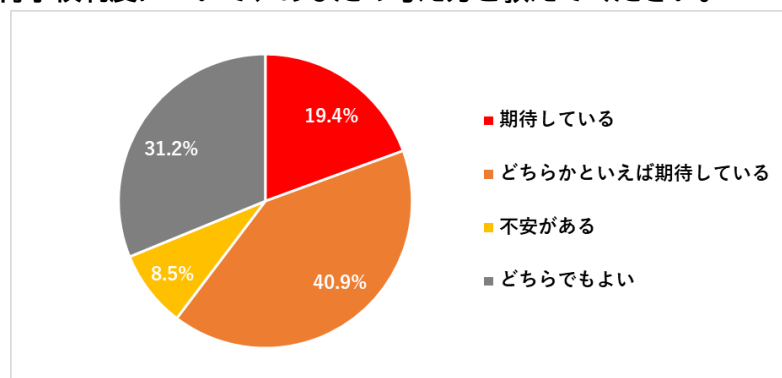


問2 お子さまが通っている学校、ないしは未就学児のお子さまが通う予定の学校を教えてください。

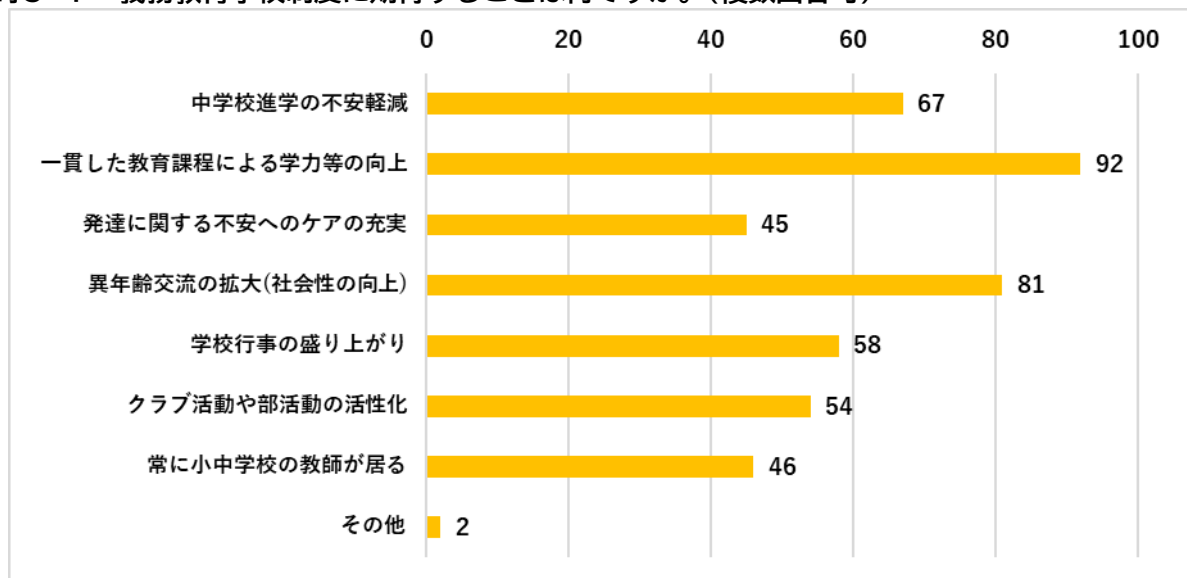
問3 東・北中学校区で「義務教育学校制度」について、研究を進めていたことを知っていましたか。



問4 義務教育学校制度について、あなたの考え方を教えてください。



問5-1 義務教育学校制度に期待することは何ですか。(複数回答可)



【その他回答】

- ・小学校の自校式給食および施設の維持
- ・義務教育学校に関する噂で、給食が中学校と同じやり方に統一するのではというものを聞きました。出来たて、そしてそこにいる児童の声をダイレクトに受けとれる自校式は、とても良い物と思っています。小中がつながりよくなるのは歓迎ですが、その点だけ気になっています。(ハーベストさんは正直評判がよくないので)
→ 義務教育学校になっても、1～6年生は当面は自校式給食での運営となります。但し中学校給食については9割近い満足度というアンケート結果があり、生徒数の減少によっては給食センターに余力が生まれることが見込まれます。こうした状況を鑑みながら今後給食室の施設維持の在り方を中長期的に見直し、空調設置等教育環境の整備に充てることも将来的には検討していく必要があります。その際には、改めて保護者の皆様にもしっかりと説明した上で、取り組む方針です。
- ・現在私の娘は学年全体からいじめを受けているのですが、『いじめ』というワードを避けたいのか先生方の対応が鈍く、娘はとても苦しんでいます。なので今後小中一貫教育になれば、いじめやトラブルなどが起きても、過去を遡り生徒同士の関係性の確認や事実確認などが迅速に対応していただければ、うちの子は現在進行形で苦しめられていますが、今後入学してくる子供達のためになるのではと期待しています。
→ ご指摘のとおり、統括学校長が配置され、教員組織も一つになることで、いじめや不登校の対応が強化されます。特に小学校においては、教科担任制の導入や成長が早くなった高学年の指導などにおいて中学校の指導方法が共有され、具体的な対応が進みます。

問5-2 問4で「不安がある」を選んだ理由並びに問6自由記述に対する回答

(1) 全体像について（説明機会や行事等についてを含む）

- ・1年生の子が一生懸命覚えている校歌、中学校の制服、小学校の卒業式、部活動等、不透明すぎて不安しかありません。
- ・現時点からの変更事項などは、在学中の生徒や保護者にも相談してもらい決めてもらいたい
- ・6年生の卒業式がなくなる場合に式典用のフォーマルを着る事があるかないか。7年生以上は制服のままなのか。行事は全体で1回にまとまるのか。(運動会)など変わる事によってなくなるや追加される事があるのか。いつ頃全体周知されるのかなどまだまだ疑問が多いです。
- ・メリットはあると思っているので基本的に新制度については賛成ですが、小学校時の登校班は、地域の為にもそのままあってほしいと願います。また、卒業式などは、小学校も今まで通り行っていてほしいです。

→ 学校からの説明が不足していて申し訳ありません。当面の間、校歌・中学校の制服・部活動など従来の活動はそのまま維持されます。卒業式も名称は立志式等変更があり、卒業証書も前期課程修了証となりますが、授与や卒業に向けての合唱等大きな変更はありません。但し子どもたちが自分たちで変えていきたいという気持ちが高まれば、地域や保護者の皆さまにもしっかり納得いただいた上で、子どもたちの代表から新しい形を目指す教育活動は、新たな学び舎として必要なことと考えています。登校班については、当面大きな変更は考えておりません。

- ・不安というか、校舎はそのままでも今と何が違うのか具体的に分からない部分が多いです。中学生と小学生の交流機会が増え、中学校の先生が小学校に教えにきたりする…というだけでいいですか？
- ・総会などでも説明がなく(書面のため)ほとんどよくわからない状態で、疑問しかない。知っているのは、本部や役員をしているいちぶの人だけ。今現在の幼、小、中学校の交流しているのと何が違うのか？学校名が変わるや、制服に統一されるなど、噂なのか、事実なのかわからない話をきくだけでわからないことだらけ。もう少し具体的な内容の説明をしてほしい。
- ・どうしても校舎が離れているので、交流の際は、特別感のような感じになってしまうのではないのでしょうか？小中一貫をするのであれば、気軽に交流できる機会があるといいと思います。小中の職員室も別々のため、児童の実態にあった対応ができるのか疑問です。小中一貫には賛成です。先生たちの負担にならないような工夫をお願いします。
- ・子ども達同士の小中交流がもう少しあったらと感じる。(なかなか時間的に難しいとは思いますが)

→ 説明が不足していて不安を抱かれたのであれば、申し訳ございません。小学校と中学校の関係であれば、交流という観点から、清掃活動や授業などで一緒に学ぶ教育課程の編成が可能になります。現在の学習指導要領では、主体的・対話的・深い学びの実現として、「何を学んだか」ではなく、「何が出来るようになったか」が重要とされています。先進事例では、小学生の英語発表を聴いてあげたり、中学生が小学生の前でダンスの模範演技を披露することで、それぞれの学習意欲の高まりを引き出しています。既に7月8日には、民間企業と連携した交通安全の授業を小学校2年生が受講し、同時に中学1年生がアシスタントティチャーを務めることで、学習効果が高まった授業が展開されています。今後も一体的な学校運営で、子どもたちの学習意欲を引き出し特色ある教育活動を目指してまいります。

また、本市では、小中一貫教育の研究を平成23年度から続けてきましたが、残念ながら定量的な成果の確認までは至らず、今回改めて異年齢交流や学力向上施策を中心に義務教育学校制度の研究に取り組んだ結果、学力や非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながりました。今後も教職員が子どもと向き合う時間を確保するなど、具体的な取組も含めて義務教育学校の全容が保護者にも伝わるよう、情報発信に努めてまいります。

- ・現時点からの変更事項など、早めにちゃんと、きたアナウンスをして欲しい。もし変更するものやことがあるならば、過渡期を長くとももらいたい。入学途中での変更は、こちらの予定していたものと変わり困惑します
 - 学校からの説明が不足していて申し訳ありません。入学式など従来の活動はそのまま維持されますのでご安心ください。大きく変わるのは校長が一人になり校名が変わることのみで、一貫教教育の研究も平成 23 年度から 10 年以上にわたり取り組んできました。但し子どもたちが自分たちで学校の仕組みを変えていきたいという気持ちが高まれば、子どもたちの代表から地域や保護者の皆さまにもしっかり納得いただいた上で、十分な過渡期を確保してまいります。
- ・内容がよくわからないので。六年生の修学旅行がなくなると聞きました。
 - 説明が不足して申し訳ございません。修学旅行は従来通り実施します。
- ・登校方法、制服等、また運動会また体育祭などはどのように取り組むのか。市内一斉ではないので部活はどのように運営していくのか。学力向上にはどのようにつながるのかが不明です。
 - 不明の部分が合ったようで補足させていただきます。現時点で登校方法・制服等生活の決まり運動会・体育祭・部活動など従来の活動はそのまま維持されます。但し将来的には、中学校の生徒数が減少した場合、平日の部活動に関しては高学年が部分的に希望参加する可能性はあります。その際には改めて説明を行いますが、部活動は教育活動の一環であり、希望制かつ安心安全な運営を目指すこととなりますのでご安心ください。
- ・具体的な説明がほとんどなくよくわからないから。
- ・何が大きく変わるのか、義務教育学校制度という呼称からして、やや分かりにくい気がします。
 - これまでの P T A 等の機会を活用して説明に努めてまいりましたが、御理解いただけなかったとのこと、申し訳ございません。当面の間、校歌・中学校の制服・部活動など従来の活動はそのまま維持され大きな変化はありませんが、大きく変わるのは校長が一人になり校名が変わることとなります。

これまで研究を進めてきた一貫教育では小学校と中学校に校長がそれぞれ配置され、校長は 2 人で、職員会議や教育目標も別々に存在することになります。対して今回の設置を目指す義務教育学校は、1 人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、教育課程を編成・実施するものです。本市では、小中一貫教育の研究を平成 23 年度から続けてきましたが、残念ながら定量的な成果の確認までは至らず、今回改めて義務教育学校制度の研究に取り組み、学力の向上、非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながったことから、より高い効果を目指すため設置を目指しています。
- ・卒業式や修学旅行はどうなるのか。節目がなくなるのはつまらない
 - 小学校の卒業式も名称は立志式等変更があり、卒業証書も前期課程修了証となりますが、証書授与や卒業に向けての合唱等大きな変更はありません。中学校の卒業式は形式の変更等は予定されていませんが、児童生徒数の減少により、体育館に収容可能となれば、小学校 1 年生から中学校 3 年生が一堂に会する卒業式となり、新たな感動体験の創出も可能となります。修学旅行も現状のままで実施予定であり、節目がなくなるということはございませんので御安心ください。ただし、子どもたちが自分たちで変えていきたいという気持ちが高まれば、子どもたちの代表や地域や保護者の皆さまにもしっかり納得いただいた上で、新しい形を目指す教育活動は、新たな学び舎として必要なことと考えています。
- ・もっと分かりやすく保護者へ伝えて欲しい。具体的な話を聞けてないから新しい学校づくりの内容が良く分からない。
- ・今までとどこが変わるのかなど分からない事が多い為
 - 大きく変わるのは校長が 1 人になり校名が変わることとなります。これまで研究を進めてきた一貫教育では小学校と中学校に校長がそれぞれ配置され、校長は 2 人で職員会議や教育目標も別々に存在することになります。民間企業で言いますと、社長が別々にいるこ

となりますが、それに対して今回の設置を目指す義務教育学校は、1人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ運営されますので、民間企業で言えば社長が1人となります。

本市では、小中一貫教育の研究を校長が2人の形で平成23年度から続けてきましたが、残念ながらいじめや不登校、学力向上などの定量的な成果の確認までは至らず、今回改めて義務教育学校制度の研究に取り組んだことで、学力の向上、非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながったことから、より高い効果を目指すため設置を目指しています。外から見た大きな変化はありませんが、時代の変化に合わせて、教育の中身を進化させていくチャレンジであることをご理解いただき、引き続きご支援いただけましたら幸いです。

- ・イメージがわからない

→外見から見るイメージは大きく変化しませんが、教育の中身が少しずつ変わってきます。

特に授業については、小学校と中学校の良さを引き出し、児童生徒一人一人に寄り添った学習支援（個別最適な学び）を実現することが可能となります。

- ・小学生から中学生の学年が一続きとなると、子ども気持ちの区切りがつかないまま、6年生と7年生とのギャップを感じてしまいそう。我が子を見ている、小学生から中学生になる時の気持ちの変化が大きかった。小学校6年生で最高学年を味わい一区切りさせて、中学校に入学して1つ大人になって新しく中学生としてのルールを学んでいったと思います。義務教育学校になっても、今までと同じく、7年生からは定期テストが始まったり従来の中学生がしてきた生活をしていくのならば何のために一緒にするのか今の所良さを見つけられないです。来年度、6年生の子達は卒業式はあるのか？それとも9年制だけになるのか？制服はあるのか、ないのか？細かな色々な事があると思いますが、詰めて話し合っていて決まっていることがあるのならば随時発信して頂き、義務教育の全容が保護者にも伝わるようにしていただきたいと思います。

→ 学校からの説明が不足していて申し訳ありません。まず、小学校の卒業式も名称は立志式等変更があり、卒業証書も前期課程修了証となりますが、証書授与や卒業に向けての合唱等大きな変更はなく現状のままと考えています。中学校の卒業式は形式の変更等はありませんが、体育館に全校児童生徒の収容が可能であれば、小学校1年生から中学校3年生が一堂に会する卒業式となり、新たな感動体験の創出も可能となります。制服も現状のままと考えていますが、子どもたちが自分たちで変えていきたいという気持ちが高まれば、子どもたちの代表から、地域や保護者の皆さまに提案させていただき、納得いただければ新しい形を目指していくという可能性もあり、こうした教育活動は、新しい学び舎として大事にしたいことのひとつと考えています。

また、これまで150年間、小学6年生を一つの区切りとして小学校教育が運営されています。ご指摘のとおり、進級する事は子供達にとって大きな成長と誇りに繋がる事と考えています。そのため、当面の間6-3制は維持しますが、その一方で、中1ギャップと言われる進学時の環境の変化に戸惑う子どもたちも増加しています。本市では、小中一貫教育の研究を平成23年度から続けてきましたが、残念ながら定量的な成果の確認までは至らず、今回改めて異年齢交流や学力向上施策を中心に義務教育学校制度の研究に取り組んだ結果、学力や非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながりました。今後も具体的な取組も含めて義務教育の全容が保護者にも伝わるよう情報発信に努めてまいります。

- ・全容が伝わってこないもので、本当に来年度から実行していくのか実感が湧かないです。東小学校、東中学校は建物が隣同士で小中一緒にするには良い環境なのかもしれませんが、地域柄、中学卒業までどこかの小学校と合併して子ども達が増える事もない上に、更に小・中との環境の変化がないまま、1年生から9年生まで一貫にして良いものなのかなと思います。そういった環境の変化を感じないまま、高校生になり、まだまだ多感な時期に急な環境の変化に戸惑う子が多くなるのではと思う部分もあります。1人ひとりの性格の違いもあるとおもいますが…。全容が分からないからこそ、さぐりさぐり始まる事業なのかと不安に思います。

→ まだ開校が決定したわけではありませんが、学校としては学校運営協議会での意見や今回のアンケート結果を踏まえ、令和10年4月の開校を目指して準備を進めたいと考えています。学校制度はこれまで150年間、現在の形で続いてきましたので、不安を感じられるのも理

解しております。特に小学6年生を一つの区切りとして小学校教育が運営され、進級による自覚は大事な成長のステップかとなりますが、一方で進学時の環境の変化に戸惑う子どもたちも増加しています。

手探りではないかというご指摘もありましたが、本市では、小中一貫教育の研究を平成23年度から続け、さらにその先の形として、異年齢交流や学力向上施策を中心に義務教育学校制度の研究に取り組んだ結果、学力や非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながりました。こうした成果を交流という限定した場面でなく、学校が新しい制度を取り入れ日常化することによってより大きな成長につながると判断しています。今後も義務教育学校制度の全容が保護者の皆様にもしっかり伝わるよう引き続き情報発信に努めてまいります。

- ・どこがどのように変わるのかなど、具体的な内容の提示がまだないので、漠然とした不安がある。何が不安かは、内容次第でかわるかと思います。
- ・どのように変化していくのか期待しています。変わっていく中で、後押ししてくださる方(応援してくれる方)がたくさん出来れば良いなと思います。
- ・子供達のために御尽力頂いている先生方に感謝しております。義務教育学校の導入により、東小中学校の児童生徒が強く逞しく成長して貰いたい。

→ 大きく変わるのは校長が1人になり校名が変わることとなります。平成23年度から本市では小中一貫教育に取り組んでしましたが、現在の制度では、小学校と中学校に校長がそれぞれ配置され、校長は2人で職員会議や教育目標も別々に存在することになりますが、今回の設置を目指す義務教育学校は、1人の校長の下、1つの教職員組織が置かれ、運営されます。

それ以外の運動会や修学旅行、中学校の制服や部活動も当面は現状のままです。また、小学校の卒業式は立志式等の名称変更、卒業証書も前期課程修了証となるなど一部変更はありますが、証書授与や卒業に向けての合唱等大きな変更はなく現状のままと考えています。中学校の入学式も名称等の変更はありますが、大きな変更は考えていません。中学校の卒業式も形式の変更等は無く制服も現状のままと考えています。では何が違うのかという疑問も出てくるかと思いますが、これらの行事や学校生活は大人が一方向的に決めるではなく、子どもたちが自分たちで変えていきたいという気持ちが高まれば、子どもたちの代表から、地域や保護者の皆さまに提案させていただき、納得いただければ新しい形を目指していくという可能性もあり、こうした教育活動は、新しい学び舎として大事にしたいことのひとつと考えています。

今後も具体的な取組も含めて義務教育の全容が保護者にも伝わるよう情報発信に努め、不安が解消されるよう努めてまいります。

- ・新しい試みなので、想像がつかない
- ・情報の展開が遅い。いつからなのか、どこまで進んでいるのか等しっかりと情報を展開するべき。情報を配信するのではなく、まず、説明会等しっかりと上で情報展開しないと憶測や不安が高まる。やるならやるで良いが情報展開のやり方がよくないし遅い。
- ・小学校から中学校へあがると、学校が（先生も雰囲気も）違うと子ども達が言っていたのでどちらの方向が強いのかな、登校班、運動会など疑問がたくさんです。でも、新しい方向に向かうのはいいことだと思うので、子ども達が楽しく安全で過ごせれば良いなと思います。
- ・何が変わるのか、具体的なイメージがまだ持っていない部分もありますので、何ができるようになるのか、教えてもらう機会があると嬉しいです。
- ・低学年だと登校班など不安はある。学年目線によって不安なことなどが違うので、難しいなと思う。中学校の体育祭は子ども中心でやるので盛り上がるが、小学校と一緒にだともた変わるのかなと思う。中学生にとってのメリットがあまり浮かばない。このような情報が全く入ってこない中、学校名や校歌の変更という話を子どもから聞き置き去り感がある。
- ・9年間を通して子供達に理解出来るような形で社会の制度（税金、保険制度、外資）や政治、選挙の仕組みなど実用的な知識を身につけられるような授業をより一層取り組んで頂けると有難いかと思います。勿論授業数の関係もあるかと存じますが折角の節目でもありますしカリキ

ュラムの見直しも視野に入れて頂ければと思います。

- ・性教育について、日本はとても遅れていると言われています。外部から講師を招いたりして学ばせてほしいです。
- ・9年生になるにあたって、今を過ごしている子ども達がどれだけ理解できるか…保護者だけでなく子どもへの発信の仕方も工夫してもらいたいです

→ 外見から見るイメージは大きく変化しませんが、教育の中身が少しずつ変わってきます。特に授業については、小学校と中学校の良さを引き出し、児童生徒一人一人に寄り添った学習支援（個別最適な学び）を実現することを目指します。

また、これまでの研究では、異年齢交流や学力向上施策を中心に義務教育学校制度の研究に取り組んだ結果、学力や非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながりました。こうした成果を交流という限定した場面ではなく、学校が新しい制度を取り入れ日常化することによって、より大きな成長につながると判断しています。また、運動会等の行事や制服も現状のままと考えていますが、これらの行事や学校生活は大人が一方的に決めるでは無く、今後子どもたちが自分たちで変えていきたいという気持ちが高まれば、カリキュラムも含めて新しい形を目指していくという可能性もあり、こうした教育活動は、新しい学び舎として大事にしたいことのひとつと考えています。今後も義務教育学校の良さが子どもたちはもちろん保護者にも伝わるよう情報発信に努め、安心安全で魅力ある学校づくりに努めてまいります。

- ・在校生の親への説明をせずに、入学説明会で話をされたことは寝耳に水でした。子供たちが実験台にされるようです。詳細な情報を開示せずに話が進められていますが、メリットデメリット双方説明する義務があると思います。
- ・この取り組みは主に「中1の壁」を打破するために行なっているのでしょうか？どのような目的、達成目標があるのか、子どもたち・保護者・先生方のメリットデメリットはなにか。分かりにくいのでそこを教えていただけたら理解が深まると思います。
- ・小中一貫になることで先生方の負担が減るのはとても良いと思うが、具体的にこの部分がこう変わるなど、提示していただかないとなんとも言えない。
- ・こんなことここで書いていいのかわからないけれど、もしもいじめがあるとわかったとき。いじめられた側が登校できるよう、いじめた側を謹慎処分にしてほしい。（これは、いじめられた側が学校へ行きたくても行けないパターンです）謹慎は自宅待機。登校不可。というのも、やはりいじめの人には何かトリガーがあって奥底に抱えているものがあると思う。意図的にいじめる、は病気だと思うから。こちら側をケアすれば、何か変わるのかなと。こんなことを日本の教育機関でしているところなんて聞いたことないけど、色々な理由のある不登校がすべていじめではないだろうけど、一つの意見として捉えていただければと思いました。
- ・小中とずっと同じメンバーがいることで、いじめやなじめない子どもがずっと新しい出会いがなく環境をかえることができず苦しむことも考えられます。子どもたちの様子を見守っていただけたらと思います
- ・今までも、東小の児童はほぼ全員東中にいくので、メンバーは変わらず、環境の変化は割と少ない方だと思います。小中一貫になることにより、何が変わるのか、何を換えようとしているのか周知していただけると安心です。
- ・子どもにとって不安なく以降され、楽しく生活が送れるような環境づくりを希望します。
- ・学習の進度について、東地区では遅れが顕著な学年(クラス)が多いと感じている。学びに時間がかかる生徒に進度を合わせると、本来どんどん先に進むことができる生徒の学習の機会・時間を奪うことになる。教科によっては飛び級も認める等の何らかの対策を当然とっていただけるものと考えている。学年ごとの学習到達目標を撤廃した自由進度制等、下に合わせる・上に合わせるではなく、中学校を卒業するまでに義務教育課程が修了すれば良しとし、9年間の途中の進度や到達度は生徒ごとに異なることを否定しない手法を検討すべきである。無論それにはお金と人手がかかることではあろうが、義務教育学校制度の看板を掲げる以上、予算と人員を拡充してでも他に先駆けた新たな試みとして多様な議論をお願いしたい。別の問題として、一部の他者の面倒を見るのに長けた生徒を手のかかる生徒の「お世話係」として使うことが常態化している。クラス運営に係る教師の都合で体よく使われる生徒がいることを認識していた

だきたい。様々な発達の状態からいわゆる「手のかかる生徒」が顕在化しやすく、該当する生徒が増加していることは理解できる。しかしそのケアはあくまでも大人の側が対処すべきことであって、「お世話係」のような校内ヤングケアラーを生じさせることは断じて許されない。義務教育学校制度の枠組みの中で生徒(子ども)是非とも対応策を講じていただきたい。

- ・どのようなメリット、デメリットがあるのか知りたいです。より詳しく説明会を設けていただき、理解を深めたいと思っております。
- ・先程『その他』を選択した時の記入でもお答えしましたが現在私の娘は学年全体と特定の教員からいじめを受けているのですが、『いじめ』というワードを避けたいのか先生方の対応が鈍く、娘はとても苦しんでいます。なので今後小中一貫教育になれば、いじめやトラブルなどが起きても、過去を遡り生徒同士の関係性の確認や事実確認などが迅速に対応していただければ、うちの子は現在進行形で苦しめられていますが、今後入学してくる子供達のためになるのではと期待しています。

→ これまでのPTA等の機会を活用して説明に努めてまいりましたが、メリット・デメリットについて説明不足とのご意見をいただいたこと申し訳ございません。当面の間校歌・中学校の制服・部活動など従来の活動はそのまま維持され大きな変化はありませんが、大きく変わるのは校長が1人になり校名が変わることとなります。特に、実験台というご指摘につきましては、全くそのような意図はございません。

まずデメリットは、今回のような保護者や地域からいただいたご意見やご不安を一つ一つ解消していく必要があると考えており、今回のアンケート実施は、そのデメリット解決に向けた対応と考えています。

学校制度導入以来、150年間小学6年生を一つの区切りとして小学校教育が運営され、今の大人は現行の制度の経験者です。しかしながら社会や子育て環境の変化に伴い、現在も不登校の増加、いじめ対策、何より大きいのは子どもたちの学習欲の基盤となる自己肯定感の変化です。こうした多くの教育課題の解決に向けて教職員一丸となってあたっていますが、その一方で、現行の制度からくる対応の限界も感じています。

特に中一ギャップと言われる進学時の環境の変化に戸惑う子どもたちの増加は顕著で、本市では、小中一貫教育の研究を平成23年度から続けてきましたが、残念ながら定量的な成果の確認までは至らず、今回改めて先行事例で効果のあった異年齢交流や学力向上施策を中心に義務教育学校制度の研究に取り組んだ結果、学力や非認知能力の向上及び不登校の減少といった成果にもつながりました。

また今回の制度導入の効果の一つとして、先生方が子どもと向き合う時間がしっかりと確保されるという大きなメリットが期待されています。特に、小学校での教科担任制の導入に向けて教職員や接続コーディネーターの配置などにより、学力向上や不登校の減少などの成果やいじめの未然防止策の効果がより高まってくるものと判断しており、先行事例の研究では、1学年3クラス以下、小中合わせて27学級以下を制度導入の適正規模と示しており、令和9年度の東中学校区はその適正規模になってきます。

今後も具体的な取組も含めて義務教育の全容が保護者にも伝わるよう情報発信に努めてまいります。

(2) 小中学校の区切りについて

- ・一貫ではなく別だからこそできる事、できていた事があると思うので、分けられるところは今まで通り別が良いと思います。上の子が小学生から中学生になり、中学生らしい成長した姿を各行事でみることができました。小6の時も最高学年としての姿を見る事ができたので、9年間になることにより、高学年の自覚により成長できることが減ってしまわないか心配です。部活動、運動会、体育祭、音楽祭など…一貫になることにより、どこまでが一緒になるのか分かりませんが、上の学年の子たちが、下の子に合わせる為にできる事に制限がかかってしまう事がないことを期待します。
 - ・小学生の間は、上の学年の子が下の学年の子を見守ったり自然に出来るのに、中学生になると小学生との交流が減ってしまうと感じていたのも、とても良い取り組みだと思いました。
 - ・小学校から中学校の壁をなくして、通いやすくという事に関しては、とても良いと思いますが、これから中学生だから、しっかり勉強しなくては、部活がんばろう、など、中学生になったんだ、という意識をしっかりとって生活して欲しいという気持ちもあります。
 - ・全てをフラットにしてしまうのは違うかなと。
 - ・確かに壁は高いかもしれませんが、確実に大きく成長する時でもあるので、不安を全て取り払うのではなく、不安を乗り越える力も身につけてほしい。”
 - ご指摘のとおり、当面、分けられるところは今まで通り学校運営を行っていきます。その一方で、子どもたちの成長も早まり、高学年の子どもたちへの支援の仕方も少しずつ変わってきています。先進事例では、6年生の対応は今までと同じですが、4年生で一つの小さな区切りを設定することで、リーダーとしての自覚が高まっています。また中一ギャップと言われる環境の変化に戸惑う子どもたちも多く不登校が増加する中、段差を少なくする取り組みが求められています。当面の間、大きく変わるのは校長が一人になり校名が変わることのみですが、子どもたちが自分たちで学校の仕組みを変えていきたいという気持ちが高まれば、教職員とよく話し合い、子どもたちの代表や学校から地域や保護者の皆さまにもしっかり説明した上で、子どもの育ちに合った学び舎を目指してまいります。
 - ・小学校6年間は子供にとってはもちろん、親にとっても一つの大きな節目でもあるので、従来のような卒業式はできるのかが気になる。具体的にどのようなになるのか不明確な部分が多いので具体的に教えてほしい。
 - 不明確な部分が多くてご心配をおかけしました。卒業式は名称変更があり、卒業証書も前期課程修了証となりますが、証書の授与や卒業に向けての合唱等大きな変更はありません。
- 小学校から中学校へ、進級する事は子供達にとって大きな成長と誇りに繋がる事だと思っているのですが、それが無くなるとなると子供自身が成長を感じる大切な機会を失ってしまう事だと思っています。
- ・中学校へ進学し、制服を身につけて登校する事や、先生方の顔ぶれがガラッと変わる事、また一歩進んだ大人に近い対応を求められることなどは子供の成長にとっても影響を与えてくれたと思います。小学校から中学校への進学への不安を緩和することはとても良いことだとは思いますが、適度な緊張感と更に上の学年へと進む意識を持たせる機会は失わないで欲しいと感じます。
 - ・長男の時に、まさに中1ギャップと呼ばれるものに悩まされたが、その改革？をしている今、年々家庭学習の量が減っていて、これでそれが解消されるのか？と疑問に思う。
 - ご指摘のとおり、進級する事は子供達にとって大きな成長と誇りに繋がる事と考えていますので、当面の間6-3制は維持します。その一方で、中一ギャップと言われる環境の変化に戸惑う子どもたちも多く、これまでの研究ではその段差を少なくする取組を少しずつ進めたことで、全国的に不登校が増加する中、本校では不登校の減少という成果につながっています。進級がもたらす成長と誇りを維持しながら、段差を少なくする教育活動の改善に、小中ワンチームで取り組みますのでご安心ください。

(3) 学力の向上について

- ・ 中学受験をしたいが、小学校の間に小学校の勉強がきちんと終わるかどうか。中学への持ち越し分があったりすると困る。卒業式はきちんと小学校でもしたい。
- ・ AI での学力分析を取り入れて、個人に合った学習プランを実践するなど、9 年間でしっかり学力を伸ばしてほしい。夏休みの自由課題も一部宿題とするなど、自由だったら手を付けないことにも接する機会を増やし、様々な感性を育てる環境づくりを期待する。
- ・ 自主性の高い選択科目を導入し、その中で異年齢学習が実施されたらこどもの学びも多く個性が活かされるのではないかと思います。
- ・ 勉強に取り組む事が苦手な子でも、楽しく学べていける環境になってほしい。
- ・ 塾に行かないでも良い環境、受験に対応できる勉強のやり方を行って欲しい。
- ・ 中学生になると急に学習が難しくなり、自分でやる事が急に多くなる。小学校と中学校と一貫して同じように行動できるように小学生の頃から同じ方法をとってほしい。

→ 私立中学への受験や市内外からの転出入にも対応できるよう、準備を整えています。義務教育学校になっても、各学年の学ぶべき内容並びに学んだ結果は、教育委員会にも報告することとなっています。特に学力向上については、今回の制度導入の大きなねらいであり、東小中学校では経年で児童生徒の学力の伸びを見取る「学びの基盤プロジェクト」に小学校4年生以上が5年間取り組んでまいりました。その結果、プロジェクト導入時に小学校4年生だった児童が中学校3年生になった令和7年度全国学力学習状況調査で、調査実施後初めて全国平均を越えました。

また、市全体ではAIを活用した学力向上施策にも取り組んでおり、引き続き学力向上につながるよう、市との連携も深めながら取り組んでまいります。

- ・ 中学校教諭が小学生低学年の担任になり全教科を適切に指導できるのかどうか（逆も然り）。小中学校を校舎が別であるまま、まとめることに子どもたちにこういったメリットがあるのかが分からない。
- ・ 授業を参観していて、小～中まで教え方には差があると感じたので、小中の先生方が具体的にどの学年を受け持って、どうやって教え方を変化させてくださるのか気になりました。

→ 小学校教諭の免許状がない中学校教諭が、小学校の学級担任となることはありません。現在の教員養成制度は大きく変わってきており、小中学校両方の免許状を保有する教職員は市内に一定程度所属しており、教員のキャリアや希望等を踏まえて、教育効果が高まるよう適切に配置していく予定です。現状不登校の要因として小学校から中学校に進学する際に環境の変化に適応できない中1ギャップという課題が指摘されていますが、全国的にも不登校が増加する中、東中学校区では不登校が減少しています。これは異年齢交流や小学校での教科担任制導入などの取り組みによるものと判断しており、今後は校舎が隣接している強みを生かして、組織を一体的に運用することで、確かな学力向上や、「ふるさと秦野が好き」、「学校が楽しい」という子どもたちの学ぶ意欲を、9年間を見通して育成できる大きなメリットがあると判断していますので、引き続きご理解いただければ幸いです。

(4) いじめ・不登校対策について

- ・小中と周りの子供の環境が同じなため、不登校が解消されない。不登校が解消されたという記述を見たが、不登校の子供をもつ親としては本当なのか疑問が残る。強制的に同じ環境を選ばざるを得ない不登校の子供への義務教育を受ける権利、そのサポートをお願いしたい。
新しい学校づくりは理解できますが PTA に至っては任意加入とは名ばかりの加入の意思確認も行われずに強制的に加入させられ問答無用に会費を徴収される昔からの違法な状態を変えてください。不登校の児童の数も把握しないで体裁の良い取組みだけ公表して点数稼ぎをしないでください。
→ 説明の中では、全体の数が増えたという説明であり、未然防止の観点からの成果を示したものです。ご指摘いただいた個別の案件については、市教育委員会とも連携し、民間と支援団体とも連携しながら、学校以外の新たな学びの場の創出も含めてサポート体制を強化していますので、または是非ご相談ください。
PTA につきましても、義務教育学校制度の導入を契機に、任意加入のご指摘も踏まえ、その在り方を検討してまいりたいと考えています。

(5) その他

- ・子供の競争心を育てる部分が全くないと思う
→ 競争心を育てることも大事な教育だと考えているところです。その一方で、少子化が進み子どもたちの育つ環境も変化し、我慢する力も弱くなっているように感じています。世界的な規模の調査でも、現行の学校制度の中で生きる我が国の子どもたちの自己肯定感は、先進諸国でも極めて低く、本市においても全国学力学習状況調査の質問紙調査の結果からも、自分に自信がある割合が下がってきています。義務教育学校制度では、地域で少なくなっている異年齢交流を授業の中で取り入れることで、自己肯定感が高まってきます。子どもの育ちの変化を学校教育の中で補っていくことで、競争心の基盤となる自己肯定感を高めてまいります。
- ・まだまだ知らなくても良い中学生の世界を、小学生の低学年で知ってしまいそう。(カップルが出来る、SNS 等) 一人っ子だと、年齢に合わせて教えて行けるが、中学生との交流が増えると、早くから情報が入ってしまいそう。逆に中学生には高校受験の大事なイベント前等に、小学生と同じ学び舎になると、集中出来ない子供が出でしまいそうです。
→ 基本的には、生活スペースは区分され、交流や連携では教員がいますので、そうした心配は少ないと思います。また教室配置も現状と大きく変わらず、高校入試等も今まで通り対応してまいります。

東学区、北学区はほぼ全員が小学校からの持ち上がりで中学生となるため、環境の変化は他校より小さいと思われる。中 1 ギャップの低減などと最もらしいことばかりをいうのではなく、小中で特別教室などを共有することで管理の手間を低減したいのが本音ではないのか？

- ・校舎一体型であれば入学を検討する
→ 本市では、小中一貫教育の研究を平成 23 年度から続けてきましたが、ご指摘のとおり環境の変化は他校より小さいと思われる東中学校区においても、不登校や学力向上などの課題は決して小さくなかったと判断しており、義務教育学校制度の研究に着手してきました。現時点で特別教室の共有や一体化なども検討しておらず、むしろ制度の導入により教職員数の配置を厚くすることで、教職員が子どもと向き合う時間の確保につなげるねらいです。
- ・中学部活動について中体連が部活動を地域移行にしていくにあたり学区内の中学に部活はあるが活動内容などにより他学区の中学の方が魅力はあっても学区外の為簡単には選択できず。また中学部活動がなくなってしまうクラブチームなどにも事情があり(金銭面や送迎問題)行けない子供はやりたい事を諦めなければならない子供も出てくるのが現状ではないかと。教員の負担があるのも理解はしておりますがその辺を考慮する方針を進めるのであれば部活が縮小して

消滅までの移行期間中は子供に対しても学区内で縛りつけず選択肢をあたえるのも 1 つの対応ではないのかと。

→ 東中学校区においては、生徒数の減少にあっても持続可能な形を目指した部活動の地域展開に着手しており、今後は平日の練習機会の確保に向けて、高学年からの活動参加も検討していく予定です。また部活動の地域展開は、全国的な課題でもあるため、義務教育学校制度導入とともに、市全体で取り組んでまいります。

- ・ 東幼稚園も立地的にも一部分なので、小中との交流の機会を作っていただけるとさらに幅広い年代の環境が広がると思います。中学校家庭科の実習や小 1 の秋まつりの交流も続けてほしいです。

→ 現在小学校の入学者数の多くは民間園からとなっており、現在市全体として公私園種の別なく交流を進めています。引き続き小学校入学の際にも戸惑い無く入学できるよう交流を進めます

- ・ 支援級の充実

→ 支援級の充実も義務教育学校化の大きな狙いの一つです。研究の一環として通級指導教室の小中一体化を進めており、今後も 9 年間の育ちを見通した支援教育の充実を目指します

- ・ 教育学校になるにあたり、中学の給食費をなくして欲しい

→ 秦野市教育委員会では給食費以外にも教材費等の軽減にも取り組んでおり、引き続き国への要望も含めて保護者の負担軽減に努めていきます。

- ・ 他地区から児童、生徒の受け入れをしていく等の考えはあるのでしょうか？(上小学校のような) 子どもも減っていく中、義務教育学校のメリットに期待し入学を希望されるご家庭もあるのではないかと思いますし、子どもが増えることは単純に喜ばしいことかと思いました。

- ・ 質の高い教育活動を行い周りから「教育圏」(教育環境に優れた地域)と認知されるようになり、ひいては東学区への居住者増、入園入学者増につながるような学校にしてほしい。質の高い教育とは、義務教育学校ならではの、9 年間の系統的で独自のカリキュラムを編成すること。

→ 上地区のような特認校制度の導入は検討しておりませんが、ご意見いただいたように、先進事例では入学者数の増加につながった地域もあります。今後ご期待に沿えるよう質の高い教育活動の充実を目指します。